

主題：一御子を信じる者は永遠のいのちを持つ一

2021/4/7

目標：一バプテスマのヨハネのように、神からの使命である主イエス・キリストを証しする者になる一

キリスト伝

初期における伝道⑤

「主イエスとバプテスマのヨハネ」 ヨハネ3:22～36 p180

バプテスマのヨハネは救い主が来られた時、その救い主は誰なのかを、人々に教える使命を持って生まれた人だった。そして、主イエスこそ救い主(キリスト)であると証言したのである。しかし人々は、ナジル人で、野密を食用とし、ラクダの毛衣を着るといふ禁欲生活をし、律法を厳格に守るバプテスマのヨハネを見て、彼の方が救い主ではないかと見ていたようである。

一方主イエスは、過越の祭の後、ガリラヤに帰るまで、ユダヤの地域を行き巡り、病人を癒やし、悪霊を追い出すという奇跡を行っておられた。主イエスのそばでは驚きと歓声が絶えず聞こえ、多くの重い病気や身障者だった人、罪人だった人、律法を重んじる者たちから軽蔑されていた者たちが次々集まり、その数は日増しに増えていった。主イエスの弟子たちはそのような多くの人々に、悔い改めのバプテスマを授けていたのである。

バプテスマのヨハネの弟子たちはそれを伝え聞いて、面白くなかった。彼らは師であるバプテスマのヨハネに文句を言ったが、当のバプテスマのヨハネ自身は、かえって、主イエスこそ真の救い主(キリスト)であると証言し、あの方を見なさいと勧めたのである。

バプテスマのヨハネは使命に生き、全く自己に死んだ美しい人であった。彼はこの後すぐに領主ヘロデに捕らえられ牢獄に入れられ、人々の前から忘れ去られてしまった。そしてちょうど主イエスと同じ約33年半程の生涯を駆け抜けて、神の元に帰って行ったのである。

しかし忘れてはならないのは、預言者以上のバプテスマのヨハネよりも素晴らしい者がいる。それは、主イエスの十字架によって救われ「主の花嫁」とされた私たちなのである。

[聖書の学び]

I、主イエスのユダヤ地方伝道 (ヨハネ3:22～24)

1、主イエスは過越の祭後、9ヶ月ほどユダヤ地域に滞在されました。

①何をされていたと人々は思っていたのでしょうか。(ヨハネ3:22)

②本当はどうでしたか。(ヨハネ4:2)

II、バプテスマのヨハネの証言 (ヨハネ3:24～21)

1、バプテスマのヨハネが領主ヘロデ・アンティパスに捕らえられる直前の出来事。

①バプテスマのヨハネはサリムに近いアイノンで何をしていましたか。(ヨハネ3:23)

②バプテスマのヨハネの弟子たちは、何と言いましたか。(ヨハネ3:26)

③バプテスマのヨハネはどのように答えましたか。(ヨハネ3:27)

2、バプテスマのヨハネは、自分は何であると証言しましたか。(ヨハネ3:28)

3、バプテスマのヨハネは花婿と花嫁、そしてその友人とは誰を指しているのでしょうか。
(ヨハネ3:29)

① 花婿…

② 花嫁…

③ 友人…

4、バプテスマのヨハネはこの後、どうなると言っているのでしょうか。(ヨハネ3:30)

バプテスマのヨハネがヘロデに捕らえられたことを知り、主イエスはガリラヤに帰られた。(マタイ4:12、マルコ1:14参照)
--

5、主イエスはバプテスマのヨハネについて、別の時、何と言っておられますか。
(マタイ11:9～11 p20)

Ⅲ、御子を信じる者の幸い (ヨハネ3:31～36)

1、上から来られた方とはだれのことでしょうか。(ヨハネ3:31)

2、永遠のいのちは誰に与えられるのでしょうか (ヨハネ3:36)

* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。